

令和2年度 退舎式

～ コロナ禍の静かな卒業式 ～

松濤だより 第十四号

令和3年
3月10日
発行



二月十三日(土)午後五時より松濤学舎食堂においてコロナ禍の感染対策をする中、本年度の退舎式が挙行された。原口泰雅君(東京大学)以下三名の卒業生へリモート参加の来賓より饒の言葉を頂いた。

佐賀育英会礎理事長から「コロナ禍の自粛生活を強いられたこの一年、舎生全員の慎重な行動や協力によって一人の感染者も出なかったことに感謝する。今後也十分注意して欲しい。今年、佐賀育英会は創立100周年を迎えるが、松濤学舎は、若者に都会の経験を積んで社会に大きく羽ばたいてほしいという郷里の願いの下、多大な寄付金により設立された伝統ある寄宿舎である。これからの社会は、特に視野を広げることが大きな価値を持つ。

① 空間的な広がりの中で社会全体を見てほしい。
② 時間的な広がりの中で歴史を学び将来に生かしてほしい。
自分中心の視野狭窄は、将来に対しての責任を負わないリスクがある。視野狭窄にならないよう理想を掲げて今後を頑張ってほしい。活躍を期待している。」と祝辞があった。
続いて大坪舎友会会長より「舎友会への入会おめでとう。これまで一つも

同じ退舎式はない。特に、今年はコロナ禍の学舎の様子や取り組みがメディアに沢山取り上げられて注目された。また、県民やOBからも支援をいただいた。各人、今日という日を大切に、明日からの学舎生活を大切にしてほしい。このリモートでの退舎式もいい思い出になる。卒業おめでとう。元気で過ごして下さい」と激励をいただいた。

その後、在舎生を代表して、小野寮長が「3年前の入寮当時、親身になってお世話や指導をして頂いた。先輩たちは、それぞれの選択肢を経てこれまでに様々なこと成し遂げられてきたと思うので、今後それらの経験を新しいステージで生かして下さい。」と来賓へのお礼と共に送別の辞を述べた。

これに応え、卒業生を代表して原口君より、「4年前の入舎数からずいぶん減って頼りない先輩だったと思うが、君たちが学年を問わずスポーツなどに誘ってくれ、学舎内の絆が深まったと感じた。新しく入ってくる入舎生についても一緒に楽しい寮生活を築いてほしい。」と謝辞があった



大坪舎友会会長祝辞



礎理事長祝辞



謝辞 原口泰雅君



送別の辞 小野寮長



卒業生からメッセージ



乾杯!!

来賓のリモート退出のあと、吉松君(4年生)の乾杯の発声で、弁当・飲料水・ケーキの他にOBから頂いたビールとカップ麺、太良の知人から届いた「はるか、藤井君(2年生)祖父からの「ブラッドオレンジ」の果物が並んだ会食となる。手作りの仕切板を挟んだ静かな食事後、2年生より卒業生一人ひとりに心のこもったプレゼントが手渡され、卒業生は一人ずつ「松濤学舎での日々」「後輩への言葉」「感謝の気持ち」などを語ってくれた。最後に、舎監の「コロナに負けるな!」の元氣な掛け声で閉会となった。学舎での経験を活かして社会でも大きく羽ばたいてほしい。



卒業生(3名)とプレゼント風景

寮祭2020 軽井沢

一年 原 柁太郎
(上野 陽心)

私たちは、9月3〜4日の1泊2日の日程で長野県の軽井沢と飯山へ寮祭に行ってきました。今年には新型コロナウイルス感染拡大の影響で寮祭の開催自体も危ぶまれましたが、無事行くことが出来、とても嬉しく思っています。また、1年生にとっては、どのような寮祭になるのか不安もありましたが、2年生寮祭委員の石丸さんと出島さん、また他の先輩方のおかげで2日間という短い日程ながら、とても楽しく、思い出に残る寮祭になりました。私は軽井沢も飯山も初めて行きました。どちらも景色がきれいで自然が多くて、佐賀とはまた違う田舎の良さを感じる事が出来ました。本年はコロナウイルスの影響で寮から外に出ることがあまりありませんでしたが、寮祭で地方に遠出をすることでいい息抜きになりました。飯山にはスキー場があったので、冬場にまた行ってスキーもしてみたいなと思います。いつもの寮生活ならば、あまり関わらなかつた先輩とも寮祭という場でより親密になつたと感じます。バーベキューで普段なかなか話すことのなかつた先輩とも話すことが出来ました。また、寮生活では学年として縦の関係と横

の関係が重要ですが、今回の寮祭で縦の関係がより一層仲良くなるきっかけに繋がつたと感じています。来年の寮祭は自分たち1年生が運営、企画していかなければなりません。私たち1年生は5人という少ない人数の中、寮祭の企画をしなければなりません。先輩方と来年の新1年生に楽しんでもらえるような寮祭にしたいと思えます。今回の寮祭が自分たちにとって良い思い出となつたように、また来年も良い思い出が作れるよう案を絞って企画していきたいと思えます。



バーベキュー買い出し



コテージで記念写真

『舎内講演会』

一年 原 柁太郎

今回の舎内講演会では、人生の座標軸(修羅場から学ぶ)というテーマで講演していただきました。大企業に就職されて代表取締役社長として活躍されている方のお話を聞くと聞く経験はなかなかできません。講師の田島先生は三菱地所に入社後、ロンドンやニューヨークなどの駐在を経験された方です。今回の講演ではロンドンのパタノスター・プロジェクトでの経験を紹介してくださいました。私は将来航空宇宙関連の職に就きたいと考えているので、海外での生活も視野に入れていきます。異国の地で、言葉ではネイティブの人のように伝わるのが難しい環境の中でどのようにして苦労を乗り越え、成功を収めたのか気になるながら講演を聴いていると1時間があつという間に感じました。この経験談を聞いて、プロジェクトを成功させるには誠意を持って人と接し、様々なケースに備えて事前に準備をしておくことが大切であると学びました。そうすること

で言葉があまり通じなかつたとしても誠意が伝わり、いい結果が得られることもあると知りました。また、リーダーシップの大切さも学びました。私はリーダーの指示を待つて動いてしまいます。田島先生がロンドンで上司が去ってしまった後、若いながらにリーダーシップを発揮して、プロジェクトを引っ張り、大成功したという話を聞いて、私も田島先生のように人を引っ張っていきける存在になりたいと感じました。不可能に近い状況から大成功を収めたというお話をこうして聴くことができたのは私にとって本当に財産になつたと感じます。私は今回の講演の中で心に残つた言葉があります。「リーダーシップの意識をチームの1人1人が持つ」という言葉です。この言葉は私が今後過ごす中で、意識していかなければならない言葉だと思いました。この言葉を胸に学業やこれからの人生を悔いなく終えられるよう努力していきたいと思えます。

講師プロフィール
田島 穰(たじま ゆたか)氏
佐賀県白石町出身(白石高校卒業)
一橋大学卒業後、三菱地所(株)入社
三菱地所リアルエステートサービス社長を経て、現在丸の内熱供給(株)社長



「就活勉強会」に参加して

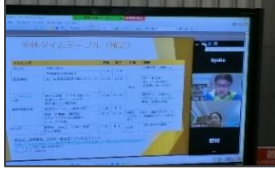
一年 上野 陽心

私は、12月19日(土曜日)に松濤学舎で開催された就職活動勉強会に参加しました。これは、舎友会学舎OBの協力のもと今まさに社会で活躍されている方が講師となつて、就職活動や社会について知るための勉強会というものです。今年はコロナ禍で多くの講師のリモート講義になりましたが、講義の内容はとても幅広く理系のIT関係のものから建設業、マーケティング業などがあり、自分の興味のある講義に自主的に参加する形は自分の学ぶ姿勢が必要になるので、内容がよりインプットされたのではないかと思います。私はコロナウイルスの影響で大学もまともに行けていない状況であり、就職活動のことは全く考えていませんでした。しかしこの勉強会がそのきっかけになったのでとても良かったと考えています。その中で私が学んだことはまず就職活動において自己分析が大切だということ。人生において働く期間というものはない。人生において働いて40年位もありません。働きたい人は人によってそれぞれ異なりますが、自分が何をやりたいのかどのようにして社会に貢献して収入を得るのかしっかりと考えたを持っていないと、その四十年間働き続けることはできないと思います。自分自身のこと

は自分が理解して、将来自分がどうなりたのか、そのために今何をしておくべきか考えなければならぬと思います。また考えるだけであれば誰でもできます。それを行動に移さない限り何も始まりません。私は大学生活で頑張ったと思える出来事を作りたいと思います。例えば資格取得や留学です。そこで挫折することがあっても、諦めるのではなくどのようなように対処していくのが今後の人生において大切になると思います。また来年もこの勉強会があると楽しみです。その時に今の私ではなく成長した私であるために、この一年間今の境遇で自分が出てくることをしていきたいと思っています。



第1会場 (食堂)



リモートでは海外からの参加も!



第2会場 (図書室)



第3会場 (講師室)

毎年、舎友会事務局長百武氏にお世話いただいて開催。コロナ禍で、講師陣の対面参加を縮小したリモート講義を中心に有意義な勉強会となった。

コロナ禍でも学舎でスポーツ・体力づくり!!



外出や活動の自粛が求められ、運動もままならない中、テニスコートでは、フットサルなどで汗をかき皆で楽しんで、ストレス発散!

経験者・未経験者に関わらずともにテニスマッチで大いに盛り上がった。OBの参加マッチなど交流の場も持てた。



秋には近隣のフットサル大会に「松濤チーム」で出場する。ナント準優勝の成績を収め、賞品のボールをGET!

年末大掃除



12月13日(日) 早朝6時頃から恒例の大掃除を全員で行った。1階から屋上にいたる共用箇所の整理整頓・掃き掃除・拭き掃除の他、中庭の落ち葉回収など手際よく済ませてくれた。おかげで気持ちよく新年を迎えることができた。その後、全員揃ってパン・バナナ・ゆで卵などの朝食を和気藹々食べて終了する。寮生の奮闘ぶりをご覧ください!



令和2年4月の緊急事態宣言から、イベントや団体活動の中止や休止が求められ、特に多くの自治会行事が中止となりました。第3波の感染拡大の減少が見通せないまま、長引く自粛生活で知らぬ間に疲れやストレスを抱え込んでしまったり、その反動で気持ちが緩みがちになってきているようです。

① 注意喚起の取り組み

・館内放送を4・5月の毎日と警報や宣言が出された時に併せて88回
・掲示板設置やソーシャルディスタンスの設定・指導

② 感染防止の衛生用品の充実

・マスク、アルコール消毒液、ポリ手袋（配膳）、ペーパータオル他。

③ 緊急事態宣言中の食材提供

・休日や昼食にパンや飲料、食材（スナック菓子やうどん、レトルト品等）の準備。

を行ってきました。学生の協力のおかげで、感染者を出すことなくここまですることができたことに安堵と感謝ですが、変異ウイルスの感染拡大やワクチン接種の見込みが不透明な中、今後もしっかりと気を引き締めた対策と学生たちの自覚と協力が必要です。

また、コロナ禍の大学生や寮の共同生活の様子や取り組みについて、NHKニュース（全国・地方版）やサガテレビ、佐賀新聞等に取り上げられ、こ

れまでになく注目をされた年となりました。それを受けて、沢山の方々からご支援をいただくなど、大変ありがたい感謝の思いでいっぱいです。

活動やお知らせ等は

ホームページをご覧ください。



保護者会より

本年度は、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大により、8月及び2月の保護者会は、中止を余儀なくされました。このような状況下こそ、保護者の皆さまの声や意見をいただく場が大切でしたのに残念でなりません。学舎や寮生の様子につきましてはテレビや新聞等のメディアからの情報発信で、生活の一端を見て安心していただけたかと思えます。

会の参加がない中、保護者会費の納入につきましても皆様の御協力により収納が完結、学生たちの活動（寮祭）の補助金として支援することができました。ありがとうございます。

保護者会費会計報告は、「松濤だより」と併せて別紙で皆様方に報告させていただきます。ご不明な点やご意見がありましたら、泉会長または松濤学舎までお申し出ください。よろしくお願ひします。

令和3年度

学舎行事予定

- 四月四日（日）入舎式
- 七月 松濤だより第十五号
- 八月 夏季休業
(8/10/18/20 食堂休業)
- 十月 佐賀県人会
- 十二月 舍内講演会
- 十二月 就職活動向け社会勉強会
冬季休業
(12/26/31/4 食堂休業
(12/30/31/3 閉舎))
- 二月 退舎式・松濤だより第十六号

自治会行事予定

- 四月 新入生オリエンテーション
交流会
 - 五月 小金井市ソフトボール大会
 - 五月 山の手線一周・スポーツ大会
バーベキュー大会
 - 六月 野川清掃ボランティア
舎友会
 - 七月 前期納会
 - 九月 寮祭（二泊旅行）
後期寮長選挙
小金井市ソフトボール大会
 - 十月 前原町運動会
 - 十月 スポーツ大会
 - 十二月 忘年会・大掃除
 - 二月 退舎式及び卒業生を囲む懇親会
 - 三月 スポーツ大会・後期納会
- ※自治会総会
(毎月第2木曜日、8・3月は除く)

編集後記



令和2年度は、新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。前期と同様に、大学の授業はほとんどオンラインとなり、寮生たちも自室で受講する日々の中、レポートや資料作成などの増加やこれまでの対面授業ではなかった作業時間が必要となるなど、対応に苦慮する学生も居たようです。活動自粛など、ストレスのはけ口を見つげにくい状況下で、オンライン授業の合間や休みの日には、テニスコートでスポーツを楽しむんだり、先輩・後輩が仲良く会話している場面も見られ、これまで以上に関係が深まったように思います。他県の寮で陽性患者が出たという情報が寄せられ、本学舎でもいつ発生してもおかしくない状況で心配しましたが、一人も出なかったことはまことに幸運でした。寮生諸君も外出時の行動やマスク、手洗い等感染しないように随分注意してくれたものと思っています。早くワクチン接種が進み、コロナから解放されることを願っています。

松濤学舎舎監 岩橋